

株主の皆さまには、日頃より当社グループの事業運営に格別のご支援を賜り、厚く御礼申しあげます。本年6月に、前社長 大槻 博 の後任として代表取締役社長に就任いたしました。

人口減少や少子高齢化による社会構造の変化、資源調達リスクや大災害に対応したエネルギーセキュリティの確保など、事業環境が大きく変化する中、「エネルギーと環境の最適化による快適な社会の創造」に向けた、北ガスグループ経営計画「Challenge2030」を策定いたしました。計画のフェーズ1(2022~2024年)では、お客さま基盤の拡大を進めるとともに、次世代プラットフォームやデジタル技術活用の核となる情報共通基盤等を整備し、事業構造の抜本的な変革を図ります。あわせて、カーボンニュートラルの実現に向けて、再生可能エネルギーを拡大してまいります。

当社は、引き続き、「安全・安心・安定供給」を前提に、地域とともに成長する企業グループを目指してまいります。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 川村 智郷

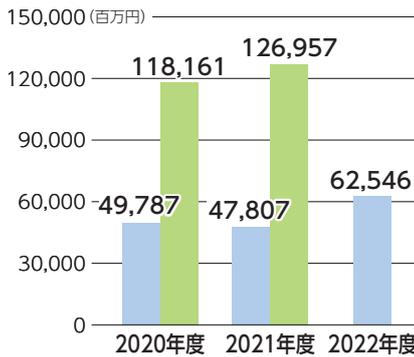
連結決算ハイライト

Highlight

● 売上高

62,546 百万円

前年同期比 30.8%増 ▲

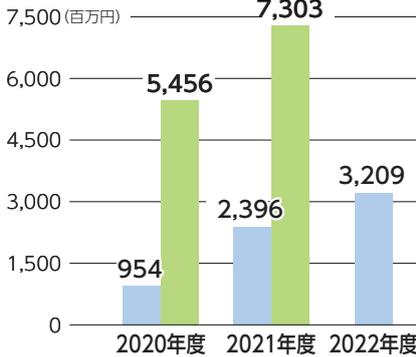


■ 第2四半期 ■ 通期

● 経常利益

3,209 百万円

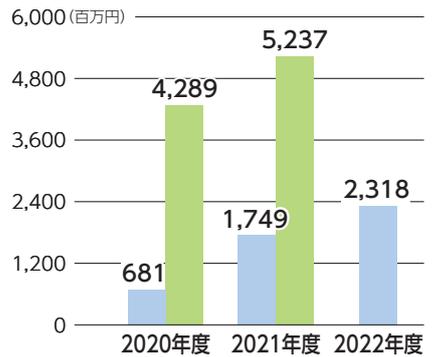
前年同期比 33.9%増 ▲



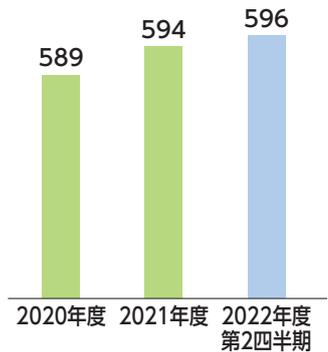
● 親会社株主に帰属する純利益

2,318 百万円

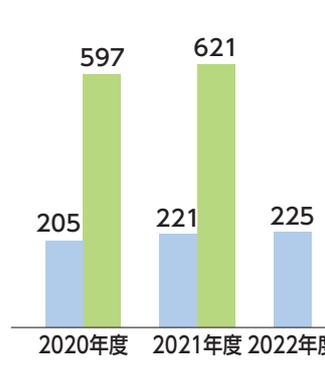
前年同期比 32.5%増 ▲



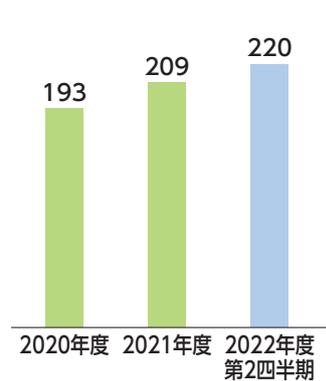
● 都市ガスお客さま件数 (千件) (取付メーター件数)



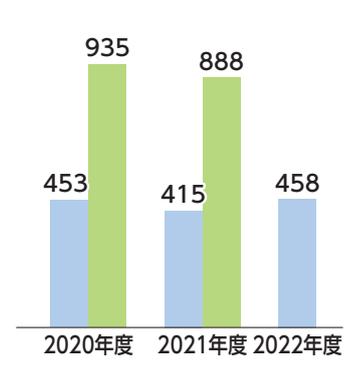
● 都市ガス販売量 (百万 m³)



● 電力お客さま件数 (千件)



● 電力販売量 (百万 kWh)



上半期業績のポイント

連結決算は3期ぶりの増収、2期連続の増益となりました。

【売上高】 ガス・電力販売量の増加に加え、原料費調整制度による販売単価の上昇等により、前年同期に比べ30.8%の増収となりました。

【経常利益】 新設のお客さま件数の増加や業務用空調(ホテル等)の稼働率向上に伴うガス販売量の増加に加え、経営全般に渡る効率化に努めた結果、前年同期に比べ33.9%の増益となりました。

当社は、2050年以降のカーボンニュートラルを展望しつつ、2030年を中間点と位置付けた北ガスグループ経営計画「Challenge 2030」の達成に向けて、以下の3点を2030年までの取り組みの柱として位置付けています。

上半期のトピックスであるコージェネレーションシステム（CGS）を核としたスマートエネルギーネットワークの運用開始や再生可能エネルギーの拡大は、その主要な施策のひとつです。

「Challenge 2030」主要施策
2050年を見据えた
2030年までの取り組み

I. 総合エネルギーサービス事業の進化による分散型社会の形成

「天然ガス+省エネ+再エネ」とエネルギーマネジメントシステム（EMS）により分散型社会を形成

II. カーボンニュートラルへの挑戦

取り得る戦略に果敢に取り組み、道内の低・脱炭素の取り組みを牽引

III. デジタル技術の活用による事業構造変革

総合エネルギーサービス事業の進化を支える強固な事業基盤を構築

新さっぽろ駅周辺地区 I 街区開発プロジェクトにおけるスマートエネルギーネットワークの運用開始について

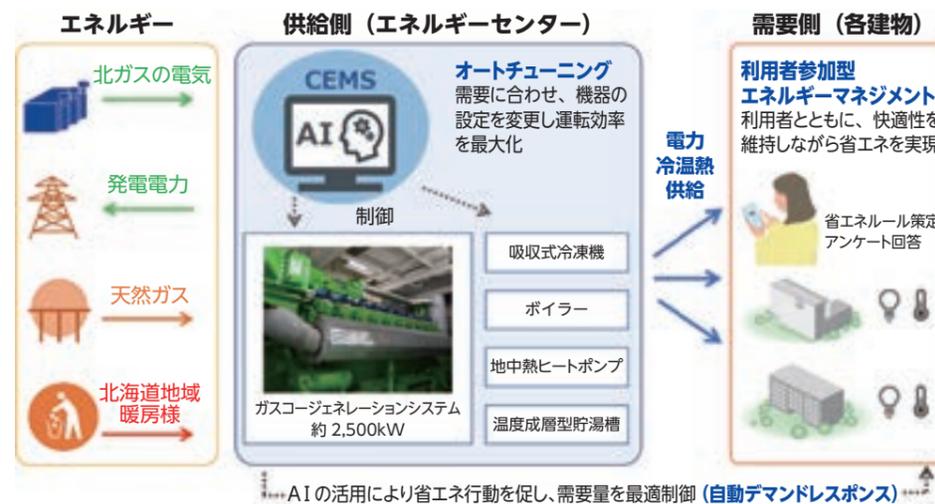
当社は、本年6月より、「新さっぽろ駅周辺地区 I 街区開発プロジェクト」において、街区全体のエネルギー供給・管理を担う「新さっぽろエネルギーセンター」を核としたスマートエネルギーネットワークの運用を開始いたしました。

新さっぽろエネルギーセンターでは、DXの活用等により3つのことを実現しています。

※DX：デジタルトランスフォーメーション（デジタル技術を用いることで、生活やビジネスが変容していくこと）

1. CEMSによる街の低炭素化の推進

各建物や利用者のエネルギー使用情報をリアルタイムで連携し、CEMSを中心とした制御により、街区全体で約35%*のCO₂を削減 ※一般的な個別熱源システムとの比較



※CEMS：Community Energy Management System（地域エネルギーマネジメントシステム）

3. 地域のBCP対策への貢献 ※BCP：Business Continuity Plan（事業継続計画）

災害により、系統からの電力が遮断されても、ガスコージェネレーションシステムにより街区内の施設にエネルギーを安定供給し、都市機能を維持

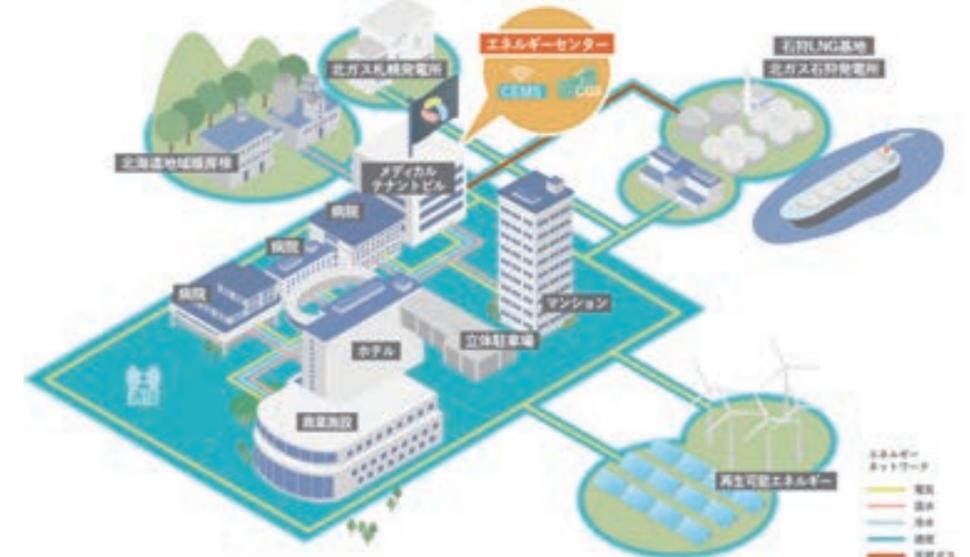
新さっぽろ駅周辺地区 I 街区とは

札幌市の「札幌市まちづくり戦略ビジョン」、「エネルギービジョン」のリーディングプロジェクトであり、2019年4月に着工。札幌駅から電車で9分の新さっぽろ駅周辺に、病院3棟、メディカルテナントビル、分譲マンション、商業施設、ホテルの7物件で構成。



2. 街区内外でのエネルギー連携

街区外へ送電（逆潮流）可能な天然ガスCGSと蓄熱システムが、街区外の再生可能エネルギーの発電状況と連携し、再エネの効率的な稼働をサポート



北ガス石狩風力発電所の建設について

当社は、石狩LNG基地に隣接する所有地において「北ガス石狩風力発電所」（2,350kW×1基）を建設いたします。2023年4月に着工し、2024年9月の営業運転開始を目指します。

1. FIP(フィードインプレミアム(Feed-in Premium))制度を活用した自社再エネ電源の拡大

これまで培った電力事業基盤（自社での需給管理等）を最大限に活用したFIP電源の安定運用と長期にわたる環境価値向上

2. 北ガス石狩風力発電所のガスエンジンによる再エネ電源出力変動調整

風況に応じて変化する風力発電の出力変動に対し、系統と連系する地点が異なるガスエンジンを調整電源として活用する、北海道初となる新たな変動調整モデルの確立

3. 風力発電および周辺技術のノウハウの蓄積

風力発電の自社開発となる本実証を通じた再エネ電源の導入拡大や、周辺技術（蓄電技術、水素活用）との融合も視野に入れた取り組みの加速

FIP制度2022年4月開始

再エネ電力を固定価格で買い取る（FIT制度）のではなく、再エネ発電事業者が卸市場などで売電したとき、その売電価格に対して一定のプレミアム（補助額）を上乗せすることで再エネ導入を促進する制度。

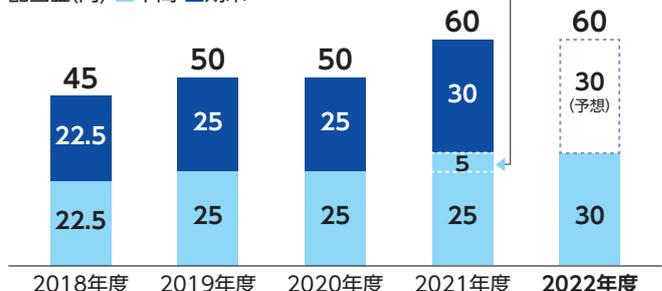


中間配当について

中間配当については、10月28日開催の取締役会において、1株につき30円とすることを決定しました。

また、期末配当予想を30円としており、年間配当金は1株につき60円となる予定です。

配当金(円) ■ 中間 ■ 期末



※当社は2018年10月1日付で、当社普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っており、2018年度の配当は、当該株式併合後に換算しております。

株主優待制度について

対象となる株主さま

毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された1単元（100株）以上を保有されている株主さま

送付時期

毎年6月初旬の招集ご通知送付時に、「おこめ券」または「商品カタログ」を同封

優待品の内容

保有株数	株主優待品
100株以上200株未満	おこめ券（1kg相当）×1枚
200株以上1,000株未満	おこめ券（1kg相当）×2枚
1,000株以上	北海道特産・名産品（3,000円相当）

株主優待品の例



※商品は変更となる場合があります。



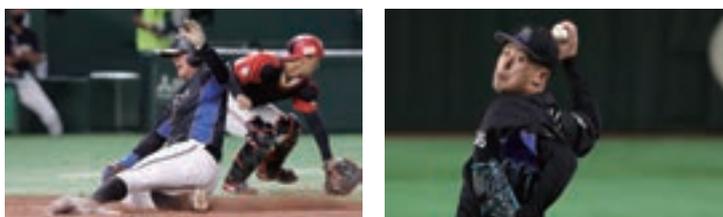
北ガス硬式野球部
REPORT

都市対抗野球大会の全国大会で初勝利!!

優勝候補筆頭の東芝に1対0で勝利!

第93回都市対抗野球大会において、北海道地区予選を勝ち抜き、2年連続の全国大会に出場しました。7月22日の初戦は、エース吉村投手（2022年ドラフト：東京ヤクルトスワローズ1位指名）を擁する東芝戦となりましたが、エース大城が粘投し、長谷川の犠牲フライによる1点を守り抜き、念願の全国大会初勝利となりました!

この勢いのまま、2回戦のJR西日本戦に臨み、7回まで1対0でリードしたものの、その後に逆転を許し、1対4で敗れました。多くの皆さまより熱いご声援をいただき、誠に有難うございました。



社員による応援団や、お取引先様も合わせて3,000名を超える大応援がチームを後押し!

詳細な決算内容や上期のトピックスは、こちらの決算補足資料をご覧ください。

北海道ガス 決算短信

検索



北のくらし、もっとできること

北海道ガス株式会社

ホームページアドレス <https://www.hokkaido-gas.co.jp/>



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC®認証紙を使用しています。見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。